

出張報告書

令和 8年 3月 1日

会派名 無会派

深津 晴江 様

出張者氏名 無会派 深津 晴江

下記のとおり出張したので報告します。

記

出張期間	令和 8年 2月20日（金） ～ 令和 8年 2月22日（日）〔 3 日間〕						
出張概要	①	月日	2月19日	市町村名	滝川市	会場	ホテル三浦華園
		目的	ふるさと納税増収のためにできること				
		テーマ	ふるさと納税に関する情報交換等				
	②	月日	2月20日	市町村名	滝川市	会場	滝川市役所他
		目的	ふるさと納税に関する視察				
		テーマ	ふるさと納税増収に向けた取り組み				
	③	月日	2月20日	市町村名	滝川市	会場	そらぷちキッズキャンプ
		目的	そらぷちキッズキャンプ				
		テーマ	医療ケア付キャンプ場視察				
	④	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
所見	別紙のとおり						
備考							

※所見については、別紙（任意様式）で作成して下さい。

2026年2月20日（金）～22日（日）

「ふるさと寄付金返礼品」についての視察

所 感：網走市においても財源確保のために「ふるさと寄付金」の増額を目指すことが必要ではないかと考えている。そのため、返礼品は海産物が強みの網走ではあるが、他に検討できる材料を学びたいと考えた。そこで、北海道では唯一ではないかと考えている滝川市で返礼品としている「一日市長体験」に同行した。

市担当職員との打ち合わせ後、滝川市長 前田康吉氏、副市長 中島純一氏、総務部部長 和田 英昭氏らと市長決済体験、市役所・図書館などの説明を受けながら視察をした。滝川市は総務部財政課に「ふるさと納税推進室」が設けられ、室長・課長・主任主事等が配属されていた。網走市にはない、担当部署をしっかりと設置していることから市の取り組みが違うことを実感した。今回の一日市長体験をふるさと納税の返礼品にした経緯は、まず、前田市長が焼肉を焼き、ふるまうのが得意なことから、それを活かさないかと職員に投げかけたそうである。そこから、松尾ジンギスカンが地元の名物であることから、それをメインに滝川市内視察を入れながら、市長体験としたとの説明を受けた。市長の発想と職員の企画力の成果が表れていた。

ふるさと納税額は100万円、数としては多くはないが、市にとっては大きな寄付額となっている。新聞社など取材も入っていた。体験内容は事前に担当者が寄付者と相談をしながら決定をしていた。

他に、公益財団法人 そらぶちキッズキャンプを視察した。難病とたたかう子どものための医療ケア付キャンプ場であった。日本では、小児がんや心臓病など難病の子どもたちは約20万人いると言われている。その子どもたちは「外で遊ぶ」ことが夢だという。そして、闘病中の子どもたちをサポートする家族にも「休息」や「リフレッシュ」が必要であると考えた。ここは、すべて寄付やボランティアの力で運営される、日本唯一の北海道大自然の中でのキャンプ場である。日本全国から、病種関係なく、2005年～2025年夏季までに1,539名の子どもとその家族が無料で招待されていた。参加者のニーズに合わせ乗馬など様々なアクティビティがあり、医師・看護師・栄養士など専門資格をもつボランティアスタッフがいる。食事形態の対応、緊急対応できる医療支援、バリアフリー・ユニバーサルデザインの視点の施設・設備も整えられていた。対象者にとってはとても楽しく貴重な体験であることは感想から間違いはないが、今後の運営資金が課題であることがわかった。

夕方、滝川市の中心市街地において、市民有志団体による「たきかわ紙袋ランターンフェスティバル」の視察を行った。駅前通りに紙袋で作ったランターンが様々な形に飾られ、とても幻想的であった。冬で寒い季節のイベントのため短時間ではあるが、工夫をしながら作った市民も、訪れた市民も「きれいだねー」と大人も子どもも満足している状況であると感じた。そのために今回は 24 回目と継続したイベントになっていると考える。手作りのランターンにとっても温かみを感じることができた。

今回は一日市長体験に同行する機会を得て、他市が行っているふるさと寄付の返礼品について学ぶことができた。海産物ばかりに頼るのではなく、人と地元の強みを最大限に活かしていくことは必須であると感じた。滝川市の前田市長はじめ、ご対応いただいた市職員等の皆様に感謝いたします。